

学校法人 品川女子学院

令和5年度 事業報告書

令和5年4月 1日から

令和6年3月31日まで

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地

品川女子学院高等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

品川女子学院中部 (東京都品川区北品川3-3-12)

2. 生徒数

(令和5年5月1日現在)

学校名	入学定員	収容定員	現員
品川女子学院高等部	225人	675人	622人
品川女子学院中部	200人	600人	670人

(注1) 休学者を含む

(注2) 留学生を含む

3. 役員等

(令和5年5月1日現在)

理事長	漆 紫穂子
理 事 (品川女子学院中部校長)	神谷 岳
理 事 (品川女子学院高等部校長)	権藤 英信
理 事	塚田 耕太郎
理 事	富本 道宣
理 事	牛尾 奈緒美
理 事	漆 克広
監 事	石井 豊彦
監 事	畑尾 直喜

理事定数	7人	現員	7人
監事定数	2人	現員	2人
評議員定数	15人	現員	15人

4. 教職員数

(令和5年5月1日現在)

教員数 97人

(内訳)

専任教員 72人

講師 25人

職員数 18人

(内訳)

専任職員 12人

契約職員 6人

II. 事業の概要

1. 教育目標（ミッション）

私たちは世界をこころに、能動的に人生を創る日本女性の教養を高め、才能を伸ばし、夢を育てます。

2. 教育活動

(1) 28プロジェクト

生徒が28歳の自分を思い描き、それを実現するためには何が必要か、どう行動すべきかを模索し、理想とする未来に向かっていくプロジェクトです。

中等部では、「他者」との関わりを通して自分を知るための総合学習を行い、自然な形で視野を広げていきます。また、起業体験プログラムを実施して仕事への理解を深め、能動的に人生を設計できるようにさまざまな取り組みを実践しました。

(2) 総合学習等

中等部では、学年ごとにテーマ（1年「身の回りの「問題」を探す」2年「社会と自分のつながりを考える」3年「未知の世界に目を向ける」）を決め、そのテーマに基づいて年間の総合学習等の行事を構成しています。学習を展開するに当たっては、地域との連携、卒業生や保護者、外部の専門家の方の協力を得て行いました。

(3) 特別講座

幅広いテーマを設定し、社会人が加わって一緒に共同作業や実習を行うアクティブな学びです。学問的な探究心を深めたり、女性としての自分や未来像を見つめる講座など、多種多様な内容を49講座開講しました。

(4) 国際理解・異文化交流

中学3年のニュージーランド修学旅行を全員参加で実施しました。8日間コースと3週間コースがあり、約9割の生徒が3週間コースを選択しました。ホームステイをしながら現地校に通い、こころと体いっぱい「世界」を堪能して、世界の中の日本・自分を再認識してきました。

修学旅行以外にも留学プログラムを4カ国（1年留学、3ヶ月留学）用意しました。令和5年度は34名の生徒が留学しました。

海外からの留学生も受け入れています。令和5年度は6人の留学生を迎え、在校生と親しく交流しました。

3. 生徒支援

(1) 奨学金制度

入学後の家計急変のため学業の継続が経済的に困難になった生徒対し、授業料等を免除する「授業料等特別免除」と、奨学金を贈与する「白ばら奨学金」の2つの制度があります。令和5年度は1人の生徒が制度を利用しました。

(2) 留学奨励金制度

平成26年度より、本校の留学プログラムに参加する生徒の内条件を満たした生徒に留学奨励金を支給する制度を創設しました。令和5年度は10人の生徒が制度を利用しました。

(3) 留学生支援

海外からの留学生に対し、学費免除等の経済的支援を行っています。

※上記の支援制度は全額、奨学基金（3号基本金）の運用収入および後援会からの寄付で賄っています。

4. 施設・設備整備

- ・B棟(職員室)に高速カラー印刷機を購入しました。

Ⅲ. 財務の概要

令和5年度の教育活動収支は当初予算を上回りました。

これは、学生生徒納付金、手数料、寄付金、雑収入が増加し、人件費、教育研究経費、管理経費が減少したことによるものです。教育活動収支差額は、予算を約9千3百万円上回りました。

教育活動外収支は受取利息・配当金が減少したため、予算を約4百万円下回りました。

以上により、経常収支差額は予算を約8千9百万円上回りました。

特別収支は、資産処分差額が減少したため、予算を約千2百万円上回りました。

施設・設備関係支出等を主な内容とする基本金組入額は、予算を約9百万円上回りました。

これらの結果、当年度収支差額は予算段階での約11億千2百万円のマイナスから約9億9千2百万円のマイナスへと改善しました。